

【方針3】 生涯にわたって学び続ける「ふじの人」の育成

【施策の柱1】 人生100年時代を豊かに生きる学びの推進

施策名	① 生涯を通した学びの場の充実						
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 51	
	A	B★	B★				
◆取組実績（成果と課題）							
・まちづくりセンター講座は、新しい趣味の発見や仲間づくり、教養を深める場の提供や地域活性化を目的として、市民団体等が企画運営する「市民プロデュース講座」や自主グループが企画運営する「オープン自主グループ講座」、民間事業者3者が企画運営する「みんカル講座」、生涯学習人材バンク登録講師を活用した「人材バンク講座」を213講座実施した。							
・市民大学前期ミニカレッジは、6科目を実施し、計234人が受講した。							
・市民大学後期講演会は、全6回を開催し、実人数として定員800人を大幅に上回る1,017人が受講した。							
◆次年度への展望							
・乳幼児から高齢者まで生涯にわたる市民の多様な学習ニーズに応えるため、様々な実施主体と協働し、多様な分野のまちづくりセンター講座を実施していく。							
・市民大学についても、引き続き、豊かな人づくりを目指し、高度で専門的な知識を学ぶ場を提供していく。							
◆指標			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
講座を受けたことによって、学ぶ意欲が高まったと回答した参加者の割合	目 標		60%	100%	100%	100%	100%
	実 績		94.1%	93.8%	93.2%		

施策名	② 地域ぐるみの社会教育の推進						
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 52	
	A	B★	B★				
◆取組実績（成果と課題） ・市民が地域を知り、関心を持ってもらう機会を創出することを目的とした「人づくり講座」を 121 講座実施した。 ・市の家庭教育支援体制の充実のため、家庭教育に関わる人材のネットワークづくりを目指し、家庭教育支援員、読書アドバイザー、スマホルールアドバイザー等による「富士市家庭教育支援交流会」を 2 回開催した。							
◆次年度への展望 ・地域資源等、地域に関する学習や、地域の人材と協働して活性化につなげる「人づくり講座」を引き続き実施していく。 ・家庭教育支援員等、家庭教育に関わる人々へ学習機会の提供や交流の場づくりを継続して行っていく。							
◆指標 講座を受けたことによって、富士市・地域の魅力や課題を知ることができたと回答した参加者の割合			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標		60%	100%	100%	100%	↑100%
	実 績		91.8%	90.8%	88.5%		

施策名	③ 新たな時代を生き抜く次世代の育成						
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 53	
	B	A	A				
◆取組実績（成果と課題）							
・青少年体験交流事業「無限∞のキズナ」は、長野県伊那市周辺を研修地とし、令和6年8月11日(日)～14日(水)の3泊4日の日程で、地域交流プログラム、体験プログラム、キズナ学習などの研修を行った。							
・雫石町少年交流事業は、令和6年7月29日(月)～8月1日(木)の3泊4日の日程で、富士市の児童が雫石町を訪問し、森のしずく公園の献花・拝礼やアーチェリー体験、小岩井農場での自然体験を行った。							
・青少年の健全育成に向けて、青少年指導委員の資質及び意欲向上を目的とした研修会を2回開催した。							
◆次年度への展望							
・青少年体験交流事業「無限∞のキズナ」は、長野県伊那市の城下町全体でのプログラムを新たに実施するなど、研修内容を更に魅力的なものとして実施する。							
・雫石町少年交流事業は、雫石町の児童の訪問受け入れをし、宝永山火口トレッキングや田子の浦港漁船クルーズなどの体験学習を行う。							
・ANAグループと協働で、キャリア教育プログラム「ミライつく～る in Fuji」を実施し、活動や体験を通して子どもたちの“未来を切り開く力”を育むことを応援する。							
・青少年指導委員は、補導連絡協議会において、各地区の補導活動等の状況や小中学校との情報交換で知り得た情報を共有するよう努める。							
◆指標 体験交流事業参加者の満足度（雫石町少年交流事業、青少年体験交流事業の満足度）			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標		100%	100%	100%	100%	100%
	実 績		—%	94.8%	100%		

〔施策の柱2〕 市民の学びの場である図書館の充実

施策名	① 生涯にわたる読書習慣の推進						
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P.55	
	B	B	B				
◆取組実績（成果と課題）							
・少子化対策の取組として保護者の育児負担の軽減、読書活動の推進などを目的とする「プレママ・プレパパ読み聞かせ講座*」（12回実施、351組参加）、託児サービス*（47回実施、215人利用）を実施した。 ・電子図書館の利用促進のため、トップページのデザインのリニューアル、利用実績を考慮した「児童向け読み放題パック」の入替、毎月のテーマ別の特集を行った。 ・利用しやすい環境づくりを目的とし、週末の「にぎわい図書館デー」、中高生を対象として夏休みの中央図書館会議室の開放を実施した。生涯学習を推進するため、各種講座や講演会、「ビブリオバトル」、「図書館まつり」などのイベントを開催した。 ・図書館資料管理システムの更新に伴い、新規サービスとしてオーディオブック*の導入、スマートフォンでの利用者カードのバーコード表示、読書シールの印刷を開始した。 ・貸出実績は1,623,245点（電子書籍を含む）、前年度の1,711,086点と比べ5.1%の減、レファレンスは31,259件と前年度の34,274件と比べ8.8%減少した。							
◆次年度への展望							
・保護者の図書館利用促進のため、「プレママ・プレパパ読み聞かせ講座」と託児サービスを継続する。 ・利用傾向等を考慮した選書と、計画的な除籍を進めるとともに、読書活動推進のための事業やイベントを実施する。 ・電子図書館の利用の増加を図るため、新規に読み放題の電子雑誌サービスを導入し、毎月のテーマに合わせた特集を継続する。							
◆指標 1人当たりの図書貸出数			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標		7.4点	7.4点	7.2点	7.2点	8.2点
	実 績		7.2点	6.9点	6.6点		

施策名	② 本・人・地域をつなぐ人材育成					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 55
	A	A	A			
◆取組実績（成果と課題） ・視覚障害者向けの音訳図書、点訳図書の製作ボランティアの技術向上を目的とし、音訳講座を4回、点訳講座を1回開催した。新たに音訳図書13タイトル、点訳図書18タイトルを作成し、利用者に提供した。 ・ボランティアを対象とする「読み聞かせボランティア講座」、「読み聞かせ勉強会」などを計14回実施した。						
◆次年度への展望 ・読み聞かせボランティア未経験者や初心者を対象とした「読み聞かせボランティアデビュー講座」を開催する。 ・技術の向上を図るため、読み聞かせ、音訳、点訳の各ボランティア対象に講座や勉強会を引き続き開催する。 ・ボランティア活動や勉強会のための会場を提供するとともに、人材育成とボランティア同士の交流を支援する。						
◆指標 ボランティア養成講座の参加者数		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	160 人	180 人	※令和6年度から、参加者の累計数を目標値・実績とする。		
	実 績	176 人	565 人			
◆指標 ボランティア養成講座の参加者数（累計）		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	—	180 人	1,090 人	1,500 人	↑1,800 人
	実 績	—	741 人	1,272 人		

〔施策の柱3〕 こころ豊かな市民文化の創造

施策名		②文化財の保存と活用					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 58	
	B	B	B				
◆取組実績（成果と課題）							
・国指定史跡「浅間古墳」の保存活用計画を策定した。 ・市指定史跡「千人塚古墳」の石室内発掘調査を実施した。（保存整備工事は現在実施中） ・国登録有形文化財「旧順天堂田中歯科医院」の移築復原に向けた実施設計に着手した。 ・市民に広く身近な歴史や文化財への理解を深めてもらうため、計5回の市民歴史講座を開催した。 ・浅間古墳関連の文化財シンポジウムの開催及び須津古墳群出土遺物等の出張展示を行った。							
◆次年度への展望							
・国指定史跡「浅間古墳」の発掘調査方針について、具体的な調査方法を協議するための部会を開催するほか、伐採木の枝等処理を行う。 ・市指定史跡「千人塚古墳」内の竹・笹の地下茎処理等の環境整備及び公開記念イベントを行う。 ・「頼朝と曾我兄弟」に関する史跡活用イベントとして、出張展示及びデジタルスタンプラリーを行う。 ・無形民俗文化財継承支援として、大北のカワカンジー*の現地調査を行う。 ・千人塚古墳保存整備工事報告書及び浅間古墳保存活用計画報告書を刊行する。							
◆指標 文化財普及活動に参加した人数			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
		目 標	200 人	200 人	480 人	640 人	700 人
		実 績	131 人	183 人	429 人		

施策名	③ 学びの場である博物館の充実					
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 58
	B	B	B			
・東泉院資料や今泉の中村家資料をベースとして徳川綱吉政権下の当地の歴史を紐解く企画展を開催した。 ・小学校と展示室をオンラインで繋ぐ授業を試験的にを行い、概ね効果的に実施できた。今回の成果をもとに、より多くの小学校や、団体見学機会の少ない中学高校などへいかにアプローチするかが課題である。 ・利用者数及び学習支援等の件数については若干増加に転じた。特別展示室では5つの展示会、展示室2では4つの特集展示、加えて24回の講座・体験学習などを計画どおり実施できた。 ※利用者数 60,075 人（一日平均200 人・利用者累計2,031,111 人）対前年度比855 人増 【主な事業】 ・第61回企画展「将軍綱吉の時代と富士」ほか4つの展示会を実施 ・古代人の暮らし3講座（ミニミニはにわ作り、縄文土器作り、土玉ペンダント作り）参加者数 96 人 ・旧稲垣家住宅活用教育普及事業（かまど飯を食べよう！、戦時中の食事、ほか3事業）参加者数 97 人 ・旧稲垣家住宅活用イベント（工芸まつり、おながく会）参加者数 1,972 人 ・博物館の日（5、7、9、11、3月実施）参加者数 920 人 ◆次年度への展望 ・郷土の博物館としての役割を踏まえ、市内小中学校等との連携強化に取り組む。 ・小中学校や高等学校との連携においては、ボランティアの導入やデジタルコンテンツを活用した連携を研究する。 ・魅力ある展示会や体験講座を実施する。						
◆指標 博物館資料を活用した学習支援 の件数（児童生徒・高齢者の見学、 体験学習、出前講座ほか）		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標	132 件	70 件	70 件	90 件	165 件
	実 績	69 件	60 件	83 件		